

名古屋自然保護官事務所 房村拓矢

藤前干潟は、大都市名古屋の市内にあります。都市の中に自然があるのだろうかと思ってしまう方もいるかもしれませんが、実はあるのです。藤前干潟は、市内にありながら、潮の満ち引きが作り出す多様な環境に育まれ、鳥、魚やカニのほか、貝やゴカイなどの底生生物を数多く見ることが出来る場所です。「都会にこんな素晴らしい自然があったのか!!」と多くの方の想像を良い意味で裏切ります。



都市の中にある鳥の楽園
(背景は工場地帯)

藤前干潟は、これまで連載されてきた場所とは違い、「国立公園」ではなく「国指定鳥獣保護区」に指定されています。その指定理由は、集団で渡り鳥が飛来する場所だからです。どれくらいの鳥が飛来するかというと、例えば、2008年3月末には、スズガモという鳥が1種類だけで約3万羽飛来しました。藤前干潟には、国内外から合計174種類の鳥がやってきます。遠くはアラスカやオーストラリア方面から飛来する渡り鳥で、藤前干潟は、その渡り鳥たちの重要な栄養補給や休息地となっているのです。

その藤前干潟ですが、過去にごみの最終処分場として埋立ての危機にさらされました。しかし、市民や研究者、行政などの努力の結果、埋立計画が中止されました。つまり、藤前干潟は、埋立ての危機から救われた野鳥の楽園なのです。

藤前干潟においては、素足で干潟に入り干潟を感じるイベントや、周辺の川、水田と干潟の関係を解き明かすイベントなどその素晴らしい自然を体験し、楽しく学べるイベントが多数実施されています。また、藤前干潟を漂着ごみや不法投棄から守るため、多くの市民が集まってクリーン大作戦などのイベントを実施しています。



干潟の観察会の様子

多くの人の手で守られた藤前干潟は、鳥などの動物たちだけでなく私たち人間にとっても大切な宝物です。是非一度藤前干潟に遊びにお越しください。

そしてこの宝物をこれからも一緒に守っていきましょう!!

Focus

開催しました!

トークイベント 「中部地方の地域環境力を創る」

中部地方環境事務所と名古屋大学の主催で、環境月間の6月26日(金)に名古屋大学 I B 電子情報館でトークイベント「中部地方の地域環境力を創る」が開催されました。

第1部では、国連大学高等研究所いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニットのあん・まくどなど所長に基調講演を頂き、第2部では環境白書を読む会を実施し、白書の説明、有識者によるトークセッション、会場との質疑応答が行われました。

会場では、あん所長のフィールドワークに基づいた経験談に参加者が耳を傾け、白書に記載されている最新の環境施策の動向を踏まえ、今後の方針や生物多様性条約COP10について会場とやりとりが行われ、今後重要となる様々なセクター同士の地域連携が呼びかけられました。



国立公園クリーンアップ推進事業 を実施しました

中部地方環境事務所は、6月中旬から下旬にかけて、伊勢志摩国立公園内の鳥羽市の4海岸約4.2haにおいて国立公園クリーンアップ推進事業として漂着ごみ清掃を実施しました。本事業は、国立公園において、景観上の支障だけでなく、海洋生物などへの影響が懸念されている漂着ごみを一掃することで、公園の自然環境の保全と安全・快適な利用を推進するため実施したものです。

今回、回収されたごみは4海岸合わせて約60tにも上り、その種類は流木や漁業に使用されるブイなどのほか、ペットボトルや瓶・缶類などの家庭ごみも多く回収されました。これらのごみの多くは河川を通して漂着することが指摘されており、生活上の不注意や、ポイ捨てなどにより発生したごみも多いと考えられます。

